

上越市議会 各層との意見交換会 開催記録

若手農業者 × 市議会



【日時】 平成29年12月18日(月)

午後1時30分～3時30分

【会場】 市役所木田庁舎 第2委員会室

若手農業者 × 市議会

日時 平成29年12月18日(月) 午後1時30分～午後3時30分

場所 木田庁舎第2委員会室

概要 JAえちご上越青年部の活動紹介、意見交換

	意見・質問
1	グローバルGAP認証について(国際基準とJ-GAP(日本独自)もある。)、 現在、当市では、認証に向けた助成を実施していないが、今後検討してもらえないか。(毎年登録料がかかる。)他市(新潟市・長岡市)では単年度(新規登録時のみ)助成している。
2	2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、グローバルGAP認証がないと食材を調達できない。認証取得にはメリット(販売への強み)はあるが、資金面を考えると考えてしまう。
3	水稻の作業効率を考えると圃場整備をしたい。しかし、平成31年度以降は、圃場整備面積のうち園芸2割の条件があり、踏み切れない。(条件を満たさなければ優先順位が下がる)
4	野菜を作ることはできるが売ることができない。
5	学校給食における上越産野菜の利用率は約2割となっている。この割合をアップできないか。(安定的な数量確保が課題)
6	学校給食用市場があればよいと思う。できるだけ地元の野菜を外へ出したい。
7	春日新田小学校の授業で訪問した。市でも子供たちに農業に関心、興味をもってもらう取組を行い、農業の良さを教育の場で伝えてほしい。
8	フリガナを振ってある資料が少ない。改善してほしい。学校の資料も同様。子どもに勉強を教えるとき、親が分からないとは言いたくない。
9	学校給食において、上越野菜が調理に使われていることなどを話題提供し、関心をもってもらい
10	新規就農者への支援について、助成金を使い易くしてほしい。
11	現在、青年部で「ポリシーブック(政策集)」を作成している。制度の中で困っていることなどをまとめ、提言していきたい。
12	今後農業を継続するには、農業法人も考えるが、機械化と後継者問題は大きい。
13	自分の集落の農業を守りたい、良い物を作りたい思いがあるが機械が高額でネックになる。
14	儲からないから、食べていけないから兼業をしている。これが現状である。
15	(農業以外の)仕事を辞めて農業に取り組める環境にあるのか。
16	農業は、子供たちが夢をもって取り組めるのか。
17	市街化区域内の宅地において、水路の管理を地元が担い、負担になっている。
18	年一回、このような意見交換会を開催してほしい。
19	家族で経営しているが、最近父が急死し、人手がなく困難な中、何とかやっている。来年は人手不足のため規模を縮小する予定。
20	水田33ヘクタール、ハウス3アール、畑30アールで、ワタボウシ、コシヒカリ、えみのきずな(寿司米)、山田錦(酒米)を栽培。「売れるコメしか作らない」をモットーにしている。
21	水田を経営している。5年前に父が死去し、1年間のうち3か月のみ、一人雇用している。最近母も腰痛のため、もう一人雇用する予定。
22	複合経営にも興味があり、検討している。以前は枝豆もやっていたが、今はやっていない。
23	農業公社に勤務し、水田を耕作している。自宅にも水田があるが、手伝えない状況である。地域には離農者が多く、農業公社や法人などで引き受けて農地を荒さないようにしている。
24	特に担い手不足が課題だ。現農家は60～70代が大半で、その下の世代は地域から出て行ってしまっている。公社としても手が回らない状況である。
25	若手にも話をするが、(中山間地なので)農地の条件が悪く、手がかかるため、2～3ヘクタールで精一杯という状況だ。

26	地域に空き家が多い。市に管理してもらい、県外等からの移住者の誘致をしてほしい。地域で農家民宿を始めた移住者のひとは、この地域に惚れて移住した。都会の人は観点の違いでこの地域を好む可能性がある。こうした人に担い手になってもらいたい。
27	(平場の農業者の立場から見て)中山間地は本当に大変だと思う。協力体制が必要だ。友人同士で協力できないかと考えている。農業法人の展望もある。農の雇用には限界があり、「ちょっとやってみよう」程度で就労しても定着せず、結局、それまでの職業訓練などが無駄になってしまう。だから、農家同士の協力に可能性があると思う。
28	草刈りが大変だ。
29	グリーンファーム清里の天皇杯受賞は、中山間地と平場の複合経営が評価された。平場でコストを下げ、中山間地では売れる農業に挑戦している。
30	中山間地のコメはブランド化できると思うが、平場のコメと同じ価格ではやっていけない。
31	例えば、おいしいコメができる場所(中山間地)ではコシヒカリを作り、平場では多収穫米を作るというように役割分担して、上越全体を一つの農場としてやっていければ良いのではないか。
32	30年問題で揺れる中、自分もコシヒカリをやめるつもりはないが、JAは、他品種の栽培を薦めている。今ある機械を使って、自分の世代ではコシヒカリを作っさえいければいいという考えでは若い世代に継承できず、困る。
33	現状は水稲がメインだが、飼料米への転換もやっている。業務用米が不足しているという話も聞く。大豆への転換にも興味があるが、専用の機械がないうえに手間がかかり、いやがる人が多い。いずれにせよ、せっかくだからおいしいモノが作りたい。
34	中山間地のコメはおいしいので、付加価値をつけて売りたい。はさかけ米もやりたいが、コストがかかる。無農薬も同様だ。生き抜くために大島産コシヒカリ「おおしま育ち」を立ち上げたので是非知ってもらいたい。青年部で担っていかなければならないと思っている。
35	地域の農家の中に、農業の継続について悩んでいる人がいる。農業機械を更新してまでやっていくかどうか最大の課題だ。こうしたところへの支援がほしい。
36	設備投資に見合う農業になっていくかが課題だ。
37	直播もやりたいが、専用の機械が必要で、買ってまでとなるとハードルが高い。チャレンジできるようにしてみたい。
38	農業機械のリース事業もある。利用するにはたくさんの書類が必要だが、そうした点への支援も必要だ。
39	学校給食における地元野菜の割合が低いということで、仲間と頑張っている。
40	雪室、雪下野菜は、天候に左右される。中山間地の雪を活用し、保存、出荷に利用してはどう
41	雪下野菜の植え付け時期は、8月20日頃からだが、稲刈り時期と重なる。中山間地の稲刈りは9月中旬頃からのところもあり、お互いに手伝うことも考えられる。
42	中山間地の農業は、かかる労力が違う。また、冬場の仕事がないことが課題だ。平場とどうタッグを組むかがポイントだ。
43	機械のローンに追われている。新規就農者支援を受けるために機械を一斉に買っているため、更新時期も重なってしまう。一定の基準で更新時も支援してほしい。
44	作付面積を増やすほど大きな機械が必要になり、負担になる。支援してほしい。
45	機械の更新時は補助がなく、大きな負担になっている。
46	あるるん畑で野菜を直売する際、女性が調理法も合わせて紹介するとよく売れた。女性の参画が重要だ。
47	30年問題、TPP問題に直面し、品種をどうしていったらいいのか、見通せず不安な状況である。国の政策が変わりすぎて不安を感じている。